

日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」、国指定名勝和歌の浦講演会

和歌の浦・玉津島の歴史

— その景観・文化と政治 —

日本遺産和歌の浦・玉津島の通史を描く

講師：藤本 清二郎氏（和歌山大学名誉教授）

もとより氏は和歌文学の専門家でなく、日本近世史の研究者である。
30年近く玉津島社所蔵の古文書を紙の裏・筆跡まで完全に読みとり、
和歌の浦を歩き（「プラタモリ」より早くから）道の形状や高低差からも歴史をイメージしてきた。
このような近世史研究のスタイルによって、玉津島という場所の聖地性と玉津島社の歴史を、
古代から近代初頭期まで通して描く。
（著書「和歌の浦・玉津島の歴史」より）

日時： 令和元年 9月 22日（日） 13:30～15:00

場所： 玉津島神社大広間（和歌山市和歌浦中3丁目）

参加費： 無料 申し込み不要

主催 玉津島保存会
共催 NPO 法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構
後援 南海電気鉄道（株）和歌山支社

お問い合わせ 073(447)2660 渋谷

日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」に認定。国指定名勝和歌の浦。

名勝和歌の浦は、平成22年8月5日に、和歌の浦干潟、玉津島神社を中心として約90万㎡が国指定名勝となり、追加指定も行われました。「神亀元年（724）の聖武天皇行幸に際して山部赤人が詠んだ 若の浦に潮満ちくれば潟（かた）を無み 芦辺をさして 鶴（たづ）鳴き渡る の名歌に端を発して、その後、都に住む貴族にとって憧れの海の景勝地となった干潟・島嶼・砂洲などから成る優秀な海浜の風致地区である。」と国レベルでの鑑賞上の価値があるとして文化財保護法により指定されました。私達が住む和歌浦地区が指定されたこと、地域の誇りです。

名勝は、自然的要素と人文的要素があります。前者は、自然が造り上げた壮大な景観、橋杭岩・円月島など、後者は、養翠園、温山荘など人工的に作り上げた景観です。名勝和歌の浦は、全国的にも稀な自然的・人文的要素両方を備えた名勝です。

古来より名勝である和歌の浦は、抜けるような青い空の下、緑豊かな緑地帯である山並みに囲まれ、水平線上に、幾重にも連なる長峰山脈があり、手前には毛見崎、更に章魚頭姿山（たこづしやま）に囲まれた大パノラマ空間の中に、海、川、砂嘴、干潟、島が存在します。片男波の砂嘴の外側には、躍動する大海原から波が打ち寄せ、内側には玉のように美しい六つの島である玉津島山が連なり、名草山の山容が水面に静かに影を落とします。干潟は潮の満ち引きにより、生命の循環を示すかのように姿を変えます。空、海、波、干潟、音は、動的に躍動して景観を変え、一瞬たりとも同じではありません。

これら自然的景観の中に、玉津島神社・鹽竈神社、和歌浦天満宮、紀州東照宮、また三断橋や不老橋など各時代の歴史的・人文的景観が絶妙に配置された空間として、和歌の浦は、自然・歴史・文化が評価されました。国名勝和歌の浦を基軸にした物語、生命の循環を示すかのような干潟の潮の満ち引き、その風景が季節や天候により日々変化する和歌の浦、その美しい空間に和歌の神様が玉津島神社に舞い降りた物語、それが日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」として認定されています。四季折々、絶景の宝庫 和歌の浦を楽しんでください。

